

会長就任にあたって

松田俊正*



若い時代に昭和10年から12年にわたってドイツで過したが、この間にドイツの技術者たちからプレストレスの問題を時々聞かされたものであった。しかし一般的には実用化は進んでいなかった。それから、アメリカへ渡ったが、ここでは話題にならなかった。

まもなく、第2次世界大戦が始まり、ドイツはまたも敗れてしまったのでPCの研究も中絶したのであろう。戦後はフランスがリードして、わが国に最初に導入された技術はフレシネー工法であることはご承知のとおりである。

昭和27年、石川県の七尾市にPC工場が始めて設置されてから10数年の間に目覚ましい発展をとげてきた。RCの導入から利用度が高くなるまでには相当の時日を要したのに比べると、パテントの関係から普遍率の低いのはやむをえないのであるが、その発展の速度は、大したものである。

しかし、わが国のPC界は先進国の技術を導入している関係もあって、技術面においてはまだ後進国の域を脱しきれないのが現状である。外国で実施されている長大スパンの橋も実現していないし、建築においても、部材としての利用が立ち遅れていて、ようやく最近になって利用度が上昇しつつある。

工法についてはほとんどヨーロッパの特許のものを使用しているが、各施工会社はそのうちの1種、多くて2種類ぐらいしか使用できないようになってきている。したがって大構造物で部分的に有利な工法を取り入れて総合的に組み合わせた施工をするのは困難である。この点ヨーロッパなどでは、わりにフリーに各工法の利点を使用しているようである。

この問題の解決案としては、異なった特許の使用権を有する会社がジョイントで施工する途を開くべきではあるまいか。また、設計者もフリーな立場で設計して、より良い案を作成するようになれば解決されるのではなかろうか。

今回、会長に選任されたが、本協会が着実な発展をとげPC界の技術伸展に役立つように資するためには、多大の努力が必要であり、その責任の重大さを感じず。幸に有能な理事の先生方や、会員諸君のご協力によって乏しい財源で最大の実績をあげ、会のスムーズな運営ができるように努めたい考えである。

また、本協会は、わが国唯一のPC学会ともいふべきものであるから、本会会員から優秀な研究および施工実績を生む技術者が輩出して世界をリードするようになりたいものである。それには、できるだけ多数の会員を集めてPC学界の基盤を広げ、この中から幾多の人材を育てたい。

プレストレスの原理はなかなか面白い。横道先生のPRCのように鉄筋コンクリートにプレストレスを導入する構想など新しいものが生まれてくることは悦ばしい。立派な研究が実って実用面で総合的にPCはコスト高という概念を一掃することができるようになれば、PCの理論にもとづいて作られる構造物の普及はますます増大するであろう。

* 本会第5代会長 ジャパンコンサルタンツKK社長